

歌う新しい校歌。目に映るもの、耳に聞こえるもの、すべてが新鮮で、初めての経験でした。

最初に新たな友達を作る第一歩となったのは、委員会や生徒会活動、部活などの場面です。同じ目標を通じて、今や親友ともいえる存在を、ここで見つけた人もいることでしょう。委員会活動終了後に、夜の暗い学校を皆で手を繋いで走り回り、急に電気が消え、「お化けだ、逃げろ」と叫び、先生に怒られたことも、今では良い思い出です。

素敵な仲間と出会ってから、あっという間に三年生になり、更に絆を強めた修学旅行。負け陣営は自分の秘密を告白するというルールで行われた人狼ゲームには、男女問わず多くのクラスメイトが参加し、異様な盛り上がりを見せました。東北の大自然や雲海には圧倒されましたが、それ以上に新幹線でやったゲームや、レクで出された先生の昔の写真など、くだらないことばかりを覚えています。多くのことを学ぶと同時に、仲間と過ごす時間の大切さを改めて感じた三日間でした。

「全力でかかってこい！」というテーマのもと開催された学校祭。舞台裏で爆笑していた裏方も、アドリブを入れて周りを困らせた役者も、最後の学校祭に懸ける思いは一緒でした。自分たちで作り上げた脚本や演技で会場を盛り上げたあの感動は、今でも忘れていません。このように、今、語り尽くせないほどの思い出がよみがえってきます。

友達と笑いながら通学路を歩み、部活動に汗を流し、なんの憂いもなく日々を過ごすことができた陰には、私達を傍で支えてくださったたくさんの人がいます。

地域の皆様。皆様のおかげで、充実した三年間を過ごすことができました。真駒内曙中学校の生徒をこれからも温かい目で見守ってください。三年前の入学式から成長した姿を、この場でご覧いただけないことがとても悲しいです。

いつも傍で支えてくださった先生方。本当にたくさんのこと教えてくださいました。先生方からの言葉で、私達は大きく成長することができました。授業中にも関わらず、教室が笑いに包まれていたあの空間は、私達の大切な思い出です。三年間ありがとうございました。

一番近くで私達のことを見守り続けてくれた、家族。十五年間、様々な面からサポートしてくれてありがとうございます。本当にお世話になりました。私たちの晴れ舞台を見守ることは叶わなかったけど、一人ひとりが立派な態度でしっかりと卒業証書を受け取りました。新たな道を選び、進んでいく私達を、これからもよろしくお願ひします。

在校生の皆さん。三年間という月日は、最高の仲間を得た私達にとって、とても短い時間でした。「あの時、もしこうしていれば」、とそんな後悔がたくさんあります。後悔をしない人生なんてありません。

失敗をしない人生なんてありません。でも、自分がこの三年間を思い出す時、未来の自分はどう思うだろうか。そう考えてみれば、自然と足が動くのではないでしょうか。真駒内曙中学校の生徒が、これからも明るい笑顔で毎日を過ごせることを願っています。

最後に、三年生のみんなへ。三年間の中で、みんなが最も心に残っている出来事はなんですか。きっと、八十五人分の答えがあるでしょう。私が思い出すのは、何度も繰り返し見ているはずの光景です。八時二十九分、ギリギリでかけこむ生徒玄関。窓際の席で見つめる体育の授業。修学旅行のお土産交換。何度か外れた教室のドア。名残惜しい昼休み、チャイムの鳴る音。狭い更衣室。男子の丈が短くなったズボンに、寒さを覚えた冬。決して楽しいことばかりの三年間ではありませんでした。悩み、苦しみ、衝突し、何度もうずくまつたことかわかりません。それでも、私達が前を向き、昨日の自分を笑い飛ばすことができたのは、そんな何の変哲もない日常が、今日と変わらない明日が来ることが、楽しみで堪らなかったからです。私は、一年生のころに「ダサいね」と言い合っていた制服を手放さなくてはいけなくなることが、今でも信じられません。これから選ぶ道の先に、もう皆はいないのです。新しい世界への期待と共に、不安が募ります。この先、躊躇もあるでしょう。立ち止まることもあるでしょう。しかし、三年間ここで身に付けてきたことは、私達の生きる力になり、背中を押してくれるはずです。名残惜しいですが、もう旅立ちの時間です。皆さんに「さよなら」を言わなくてはいけません。この真駒内曙中学校で出会ったたくさんの思い出を抱き、私たちは卒業します。自分の役目をしっかりと果たし、誇れるような自分であることを忘れないで、歩んでいきたいと思います。長い人生の中のたった三年間、とても短い期間だったけど、隣に見える仲間が皆で良かった。今日まで本当にありがとうございました。

最後になりましたが、学校生活を支えてくださったすべての方々に改めて御礼申し上げるとともに、真駒内曙中学校の更なる発展を願ってお別れの言葉と致します。さようなら。三年間、本当にありがとうございました。

令和二年 三月十三日
第四十七回卒業生代表 大隅 凜乃

